

第5学年 社会科学習指導案

授業者 日下部小 橋本 尚一

1. 大単元名 「国土の自然とともに生きる」

小単元名 「森林とわたしたちの暮らし」

2. 小単元の目標

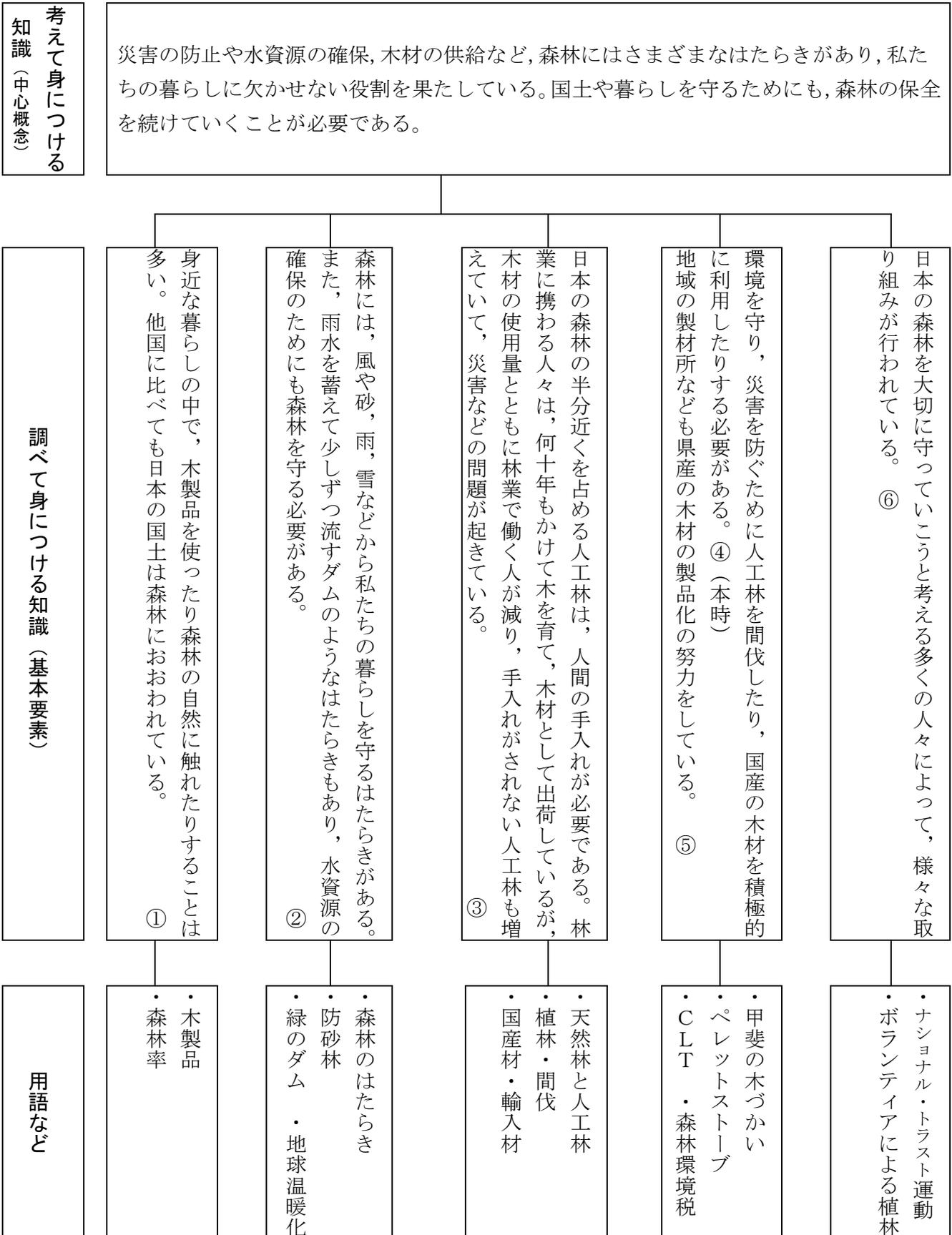
国土の保全や水資源の涵養，地球温暖化の抑制など，人々の生活にとって重要な役割を果たしている森林資源を守るため，さまざまな取り組みがあることを捉えるとともに，自分たちが環境を守るためにできる取り組みや心がけについて考えるようにする。

3. 小単元の評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
森林や木製品と，自分たちの生活との結びつきに関心を持ち，意欲的に調べようとしている。また，国土の森林資源を守っていくことに関心を持ち，これからの取り組みについて考えようとしている。	森林資源のはたらきや人々の生活との結びつきについて調べる学習問題を考え，表現している。また，国土の森林資源と人々の生活とが密接なつながりをもっていることや，森林資源を守ることの大切さについて考え，適切に表現している。	森林資源のはたらきや，森林資源を守り育てる人々の工夫や努力について，必要な情報を集めて読み取り，ワークシートにまとめている。	国土の保全や水資源の涵養，地球温暖化の抑制といった森林資源のはたらきを捉え，森林と人々との密接なつながりや森林保全の大切さについて理解している。

知識を整理した図

小単元「森林とわたしたちの暮らし」



4. 単元について

本単元は、3つの小単元から構成される。まず第1小単元「森林とわたしたちの暮らし」では、森林の多い国土の様子をつかむとともに、森林資源の果たす役割とその重要性について捉える。その際、森林には風水害や土砂崩れなどの自然災害を防ぐ効果もあるということにふれ、のちの学習内容につなげていく。

第2小単元「自然災害とともに生きる」では、さまざまな自然災害が発生する国土の様子を捉え、その被害を最小限に食い止めるために、さまざまな公共事業や地域の協同的な取り組み、住民一人ひとりの備えが欠かせないことを考えていく。

そして、第3小単元「生活環境を守る人々」では、過去の公害の事例をとおして、より身近な生活環境の保全について考えていく。ここでは、地域の環境問題から世界全体の環境問題までを視野に入れ、自然と共生していくうえで大切なことは何かを考えるという、環境問題に対する本質的な課題を見据えて展開をする。

このように国土の特色を捉えたいうえで、地域を見つめ直すという流れを基本にしつつ、グローバルな視点も持てるように単元を構成していく。

我が国の国土では豊かな自然環境が各地で見られ、国土の7割近くは森林である。私たちの暮らしは森林や木製品と深く結びついており、家屋の材料や茶わん、箸、家具など生活になくてはならないものである。また、森林は、土壌の流出や浸食を防ぎ、「緑のダム」として水を蓄えて浄化し、二酸化炭素を吸収して温暖化を抑制する役割をしている。さらに動植物のすみかとなり森林浴などで私たち人間の心を和ませる役割も果たしている。このように暮らしに欠かせない森林であるが、近年、国内で使う木材は、国産よりも輸入木材の割合が高く、輸入に頼っている状況がある。よって林業に携わる人々の数が少なくなり、手入れがされず荒れ果てた森林も増えている。我が国の林業の現状を学習し、森林を守っていくためにはこれからの林業がどうあるべきかについても考えさせていきたい。

児童はこれまでに、「農業」「水産業」「工業」「情報通信」の第一・二・三次産業を学習してきた。私たちにとって食・自動車・テレビなどの身近で生活体験が多い内容であった。しかし「林業」については第一次産業に分類されているものの、その特色や具体的な様子については目にする機会が少なく、関心も薄いと考えられる。よって林業に対する興味関心を高めていくことを第一に考えていきたい。また資料で読み取ったことを活用し林業の姿を捉えさせていくことや、林業を守るための取り組みを考えさせ、表現させていくことに留意していきたい。

本小単元の学習を進めるにあたっては、森林とふれ合った経験を振り返ったり、食料品や工業製品と木製品を比べたりすることで、森林や木製品は身近なものであることを捉えさせたい。しかし、森林のはたらきや林業についてはよくわからないことが多いことを確認し、本小単元全体の学習問題「森林にはどのようなはたらきがあり、どのように森林と関わっていく必要があるのだろう。」を設定する。そして、小単元全体の学習問題の解決を図るために、各時間の学習では、例えば「森林を守り育てる仕事では、どんなことをしているだろう。」といった各時間の学習課題を設定し、児童が主体的に追求できるようにする。特に写真・映像・統計資料等を活用していきたい。その中から具体的な働きについて読み取り、まとめていく。さらに資料を手がかりに友だちと話し合いながら本時の学習課題を追究し、自分の考えを深められるようにしたい。まとめ方についてはワークシートを綴っていき、学習全体を振り返りながら見通しをもった学習活動ができるようにしていきたい。板書についても、めあては青枠、まと

めは赤枠とし、視覚的に学習の流れがわかるように工夫する。重要な用語については黄色で示し、意味を確認しながら用語を確実に理解させる。さらに資料の説明や意見発表、学習のまとめの際には、児童が学習した用語を適切に使えるように指導していきたい。本時の学習課題に対するまとめは、「知識を整理した図」を活用して、その時間におさえたい用語を用いて児童と一緒に確認しながらまとめるようにしていきたい。

5. 児童の実態

男子18名、女子17名、計35名の元気なクラスである。クラスの雰囲気は明るく、活発な児童が多い。授業中には問題に粘り強く取り組み、解決を目指す児童が多い。しかし、中には人の話をしっかりと聞けなかったり、けじめをつけられなかったりする児童も数名いる。

発表することについては、意欲的に発表する児童が限られてしまっている。自信がなくて発表しない児童が多い。できるだけいろいろな児童が発表する機会を増やすために、班や隣同士で相談する時間を確保したり、机間指導する中で声をかけたりすることで、自信をもたせる取り組みをしている。

6. 部会研究との関わり

本部会では2015年度から「言語活動の充実をとおして科学的社会認識を育てる授業研究」をテーマとして研究を進めてきている。まず、科学的社会認識を育てるために社会的事象をどう提示するかについては、児童の体験を有効に生かすとともに、視聴覚教材を活用して効果的な学習を行っていきたい。また、学習評価については「発言」「ワークシート」「学習感想」などにより行うが、学習感想については「事実認識」「事象間の関係把握」「社会的認識の深まり」という視点で見ていくことで、児童の実態把握や、授業づくり、学習評価において効果的なワークシートとしたい。

次に、言語活動の要素を取り入れ、主体的・対話的で深い学びの創造をねらうこととし、

- (1) 単元の目標を明らかにし、児童が主体的に追究解決していくことができる問題解決的な単元の学習過程、各時間の学習過程を実現する。具体的には、
 - ①「知識を整理した図」を作成し、本単元の学習において指導する内容や、調べさせる内容、考えさせる内容を明らかにする。
 - ②「対話」をより意識する。対話には「教材との対話」「自分との対話」「他者との対話」等が考えられるが、これを意識して指導する。
 - ③導入の段階で、調べたことや資料で読み取れたことをもとに児童の気づきを取り上げ、単元全体の学習問題を設定する。単元全体の学習問題の解決を図るために、各時間の学習では本時の学習課題を設定し、児童が主体的に追究解決できるようにする。
 - ④問題解決に向けては、予想を立てさせるなどして見通しを持たせるようにする。
 - ⑤問題解決に向けて、提示した複数の資料を比較・関連付けながら追究できるようにする。
 - ⑥ペアやグループ、全体での話し合いの場を設定し、自分の考えに自信が持てるようにする。
 - ⑦「知識を整理した図」を生かして、学習した用語を使いながら学習のまとめを行う。
- (2) 問題解決的な学習につながる「問い」の工夫を取り入れることで児童が主体的に学習課題に取り組めるようにする。「どのように～？」→「なぜ～？」→「これからは～？」というように「資料」と「問い」と「児童の思考」が寄り添うような授業づくりを心がける。

また、「深い学び」を実現していくためには、社会的な見方・考え方の視点を取り入れた授業づくりをしていくことが重要である。【社会的な見方や考え方の追及の視点】として

- ①位置や空間的な広がり（地理的位置、分布、地形、環境、気候、範囲、地域、構成、自然条件、社会的な条件 など）
- ②時期や時間的経過の視点（時代、起源、由来、背景、変化、発展、継承、維持、向上、計画、持続可能性 など）
- ③事象相互、立場相互の関係の視点（工夫、努力、願い、つながり、関わり、協力、連携、対策・事業、役割、影響、多様性と共生 など）

単元や本時が社会的な見方・考え方のどの視点を使っているのか吟味しながら授業を設定する。

7. 小単元「森林とわたしたちの暮らし」指導計画

時	題材 学習課題	学習のねらい	主な学習活動	評価規準・方法
1	森林を身近に感じる暮らし ① 森林について調べたいことを考えよう	森林での体験や木製品の利用について話し合ったり調べたりして、森林と自分たちの生活との結びつきに関心をもつことができるようにする。 【見方・考え方】 ・位置や時間的広がり の視点（分布、地形、環境、自然条件など）	○自分の身の回りにある木製品や、森林の自然とふれ合った経験について話し合っ て、森林と生活との結びつきについて調べる学習問題を 立てる。	【関心・意欲・態度】 森林や木製品と、自分たちの生活との結びつきについて 関心をもって調べようとして いる。（発言・ワークシ ート） Keywords 木製品、森林率 紙製品
		学習問題 森林にはどのようなはたらきがあり、どのように森林と関わっていく必要があるのだろう。		
2	森林のはたらき ② 森林にはどのようなはたらきがあるだろう	森林がある場合とない場合の様子を比較して、森林にはさまざまなはたらきがあり、人々の生活と深く結びついていることを理解できるようにする。 【見方・考え方】 ・位置や空間的広がり の視点（環境、構成、自然条件など）	○森林がある場合とない場合の違いをイラストなどの資料からみつけ、発表したり話し合ったりする中で、森林のはたらきについてまとめる。	【技能】 2つの異なるイラストを比較して、さまざまな違いを見つけている。（発言） 【知識・理解】 森林資源のはたらきと、森林と人々のつながりについて理解している。（発言・ワークシート） Keywords 動植物、木材、健康、緑のダム、防砂林

3	<p>森林を守り育てる人々</p> <p>③ 森林を守り育てる仕事では、どんなことをしているだろうか。</p>	<p>森林を守り育てる人々の工夫や努力，林業が抱える課題について，資料を活用して調べ，まとめることができるようにする。</p> <p>【見方・考え方】 ・事象相互，立場相互の関係の視点（工夫，努力，願い，影響，役割など）</p>	<p>○「あれた森林」と「手入れがされている森林」を見比べて話し合う中で，林業で働く人の話や資料をもとに，仕事について調べまとめる。</p> <p>○林業が抱える課題を資料から読み取る。</p>	<p>【知識・理解】 森林資源を守り育てる人々の工夫や努力について，必要な情報を集めて読み取り，捉えている。（発言・ワークシート）</p> <p>Keywords 林業，天然林，人工林，植林，間伐 国産材 輸入材</p>
4	<p>森林を守る</p> <p>④ 国産の木材や間伐材をもっと利用するためにはどうすればよいのだろうか。</p>	<p>人工林を守る様々な取り組みについて調べ，国産の木材を使うことが森林を守ることにつながることを考えることができるようにする。</p> <p>【見方・考え方】 ・事象相互，立場相互の関係の視点（関わり，協力，連携，対策・事業）</p>	<p>○人工林を守るための取り組みについて様々な資料を読みとって調べまとめる。</p> <p>○国産の木材の利用が森林資源を守ることにつながっていることを考える。</p>	<p>【思考・判断・表現】 森林資源と人々の生活とが密接なつながりをもっていることや，森林資源を守ることの大切さについて考え，適切に表現している。（発言・ワークシート）</p> <p>Keywords 甲斐の木づかい，ペレットストーブ，CLT，森林環境税，</p>
5	<p>森林を守る</p> <p>⑤ 県産材を製品化する仕事では，どんなことをしているだろうか。</p>	<p>県産材を製品化する人々の工夫や努力，林業で働く人々の願いについて，ゲストティーチャーの話や資料をもとに調べ，まとめることができるようにする。</p> <p>【見方・考え方】 ・事象相互，立場相互の関係の視点（工夫，努力，願い，影響，役割など）</p>	<p>○県産材製品化の工夫や努力，林業で働く人々の願いについて，ゲストティーチャー（山梨市日下部小学区の製材業者）の話や資料から調べ，ワークシートにまとめる。</p>	<p>【技能】 県産材製品化の工夫や努力，林業で働く人々の願いについて，必要な情報を集めて読み取り，捉えている。（発言・ワークシート）</p> <p>Keywords 県産材 ウッドチップ ペレットストーブ</p>

6	各地の取り組み ⑥ 全国各地の取り組みを見ながらこれからの森林について考えよう。	全国各地の森林を守る取り組みについて調べ、これからの取り組みで大切なことを考えることができるようにする。 【見方・考え方】 ・事象相互，立場相互の関係の視点（関わり，協力，連携，対策・事業）	○ナショナルトラスト運動や植林活動ボランティアなど，全国各地の取り組みを調べ，森林を守ることが地球を守ることにつながることを捉え，私たちにできることを考える。	【関心・意欲・態度】 これからの取り組みや心がけについて考えようとしている（発言・ワークシート） Keywords ナショナルトラスト運動 植林活動ボランティア
<p>学習問題のまとめ</p> <p>災害の防止や水資源の確保，木材の供給など，森林にはさまざまなはたらきがあり，私たちの暮らしに欠かせない。国土や暮らしを守るためにも，森林を守っていくことが必要である。</p>				

8. 本時の学習

- (1) 日時 平成30年2月7日（水） 5校時（14：00～14：45）
- (2) 場所 5年1組教室
- (3) 題材 「森林を守る」（4／6 時間目）
- (4) 目標 人工林を守る様々な取り組みについて調べ，国産の木材を使うことが森林を守ることにつながることを考えることができる。
- (5) 評価基準

【思考・判断・表現】 森林資源と人々の生活とが密接なつながりをもっていることや，森林資源を守ることの大切さについて考え，適切に表現している。

(6) 本時の展開

展開（分）	学習活動・内容	指導上の留意点（・）と評価（★）
つかむ	1. 前時の学習を振り返る。 ・あれた人工林が増えている理由は？ 輸入木材が増え，国産の木材が売れないで，林業で働く人が減っているから。 ・どう思ったか？ 国産材が売れて，林業で働く人が増えてほしい。 「植える→育てる→収穫する」流れがうまくいくといい。	・前時の林業の課題を再確認する。 ・前時の児童の感想から本時の学習課題へとつなげていく。 ・収穫する＝利用するの流れがうまくいっていないことを確認する。

8分	<p>本時の学習課題 国産の木材やかんばつ材をもっと利用するためには、どんな取り組みをしていったらよいのだろうか。</p> <p>2. 予想する。 ・国産材を使った家を建てる。 ・あれた人工林を手入れする。 ・林業で働く人を増やす。</p>	
自力解決 10分	<p>3. 資料で調べる。 ・各自が調べたことをワークシートにまとめる。 ・森林再生 ・地域の人による森づくり ・甲斐の木づかい、ペレットストーブ ・森林体験活動 ・間伐材の割り箸 ・CLT</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書、副教材、配布プリントを参考に調べさせる。 ・机間指導で資料の読みとりについて支援する。
集団解決 10分	<p>4. ペアで、自分が調べたことを交流する。</p> <p>森林再生 人工林を元気にする</p> <p>間伐材の割り箸 国産材を利用する</p> <p>甲斐の木づかい・ペレットストーブ 県産材、間伐材を利用する</p> <p>森林体験活動事業 森林に親しみ森林の大切さを学ぶ 将来林業で働く人を増やす</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分とペアの友達とで交流することで、調べた項目について付加修正できるように助言する。 <p>★【思考・判断・表現】森林資源と人々の生活とが密接なつながりをもっていることや、森林資源を守ることの大切さについて考え、適切に表現している。 (発言) (ワークシート)</p>
価値の共有 6分	<p>5. 全体で、それぞれの取り組みについて確認する。</p> <p>6. 学習課題のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・CLTの補足説明をする。 ・山梨県 森林環境税から活動の補助。(一人 500円) (全国38県で導入) <ul style="list-style-type: none"> ・分かったことを、ワークシートに自分の言葉で表現できるようにする。
<p>まとめ 人工林の手入れ、森林体験活動の実施、国産材を使った木製品の利用などにより、国産の木材やかんばつ材の利用が進む。</p>		

振り返り 3分	7. 学習感想を書く。 8. 次時を見通す。 県産材を製品化している地元の製材所の方に話を聞くことを伝える。	
---------	--	--

(7) 評価の具体【森林資源と人々の生活とが密接なつながりをもっていることや、森林資源を守ることの大切さについて考え、適切に表現している。】

Aの児童の姿	評価規準を実現した姿	Cの児童への手立て
○森林資源と人々の生活とが密接なつながりをもっていることや、森林資源を守ることの大切さについて考え、既習事項や複数の資料を比較・関連させて、適切に表現している。	○森林資源と人々の生活とが密接なつながりをもっていることや、森林資源を守ることの大切さについて考え、適切に表現している。	○ペアで話し合わせる。資料からの読み取りでは、注目すべき箇所を具体的に提示し、丁寧に読み取らせる。
評価方法：調べたことや調べてわかったことをワークシートに記入しているか、話し合いの様子や発言、ワークシートから評価する。		

9. 板書計画

2/7(水)

子どもたちの予想

課題
国産の木材やかんばつ材をもっと利用するためには、どんな取り組みをしていったらよいのだろうか。

森林環境税が使われている 一人あたり500円

あれた人工林の増加

国産の木材が売れない

林業で働く人が減っている

植える
↓
育てる
↓ この流れが×
収穫する(利用する)

森林再生

人工林の手入れをする
(かんばつ・下草刈り)

国産材・かんばつ材の利用

かんばつ材のわりばし
甲斐の木づかい CLT
県産材の机・いす ペレットストーブ

森林体験活動

子どもたちに森の大切さを伝える

地域の人による森づくり

下草刈りや植林

まとめ
人工林の手入れ、森林体験活動の実施、国産材を使った木製品の利用などにより、国産の木材やかんばつ材の利用が進む。



実際の板書

10. 授業を終えて（研究討議より）

- ・子どもが自信をもって発言できるように、教師が机間指導で声かけしてよかった。
- ・子どもたちは、すぐにいろいろな資料で調べ始めていて、学ぶ意欲が感じられた。
- ・調べたことをもとに話し合う流れは検討課題である。本時は調べて書く時間が多くなってしまい、話し合う時間が短くなってしまった。アクティブラーニングの難しさがある。
- ・読み取る資料の量が多かったので、ペアではなく4人位のグループで話し合う場面があれば、もっとしっかり読み取ることができたのではないかな。
- ・資料を「国産材の利用」に絞って調べていくとよかったのではないかな。
- ・子どもたちが、資料のどこに書いてあるかの根拠を示しながら発言していたのはよかった。
- ・本時のまとめをどのように書けばよいのか、子どもたちには難しかったのではないかな。「〇〇という言葉を使って書きなさい。」というように、キーワードを提示した方がよかった。
- ・ワークシートや大型テレビで提示する資料・実物資料など、部会の先生方に提供していただき、大変有り難かった。

11. 第5時の様子 県産材を製品化する人々の工夫や努力、林業で働く人々の願い

ゲストティーチャー 古屋製材所 雨宮さん

平成30年2月13日（火）5校時 5年生全体で話を聞く

古屋製材所雨宮さんの話（概要）

- ・古屋製材所の歴史 昔は甲州市塩山の山奥で自分の山から木を切り出していた。
- ・小原に移って60年 山梨県は森林率が78%で昔はたくさん製材所があった。
- ・昭和40年には県内の製材所は約300社 今30社
- ・日常生活で木の箱からプラスチックの箱になった→原料としての木材の需要が減ってプラスチックが増加していった。
- ・取引業者 県内50% 県外50%くらい

- ・人工林がある理由 林業に携わる人が減り、手入れが追いつかない。だから現在は県や国がお手伝いしてくれている 補助をしてくれる
- ・林業の世界では、若い人が長く働けるようにしていこうとしている。
- ・間伐した木をしっかりと使い切らないと、木を育てるための費用が出てこない。
- ・大きい木は育てる 小さい木は切った後むだにしない。
- ・木材 良い物→建築材やイス、はし、コースターなど 少しでもむだにしない
悪い物→チップ材 火力発電の燃料になる 地面にまいて防草 保水 駐車場
- ・製材所や林業の人たちの発信力が弱いことも原因である
- ・大企業と協力して森を守る取り組みをしている コカコーラ ライオン（水口 八幡小）
中銀 ドコモ キューピー 富士急 ブリヂストンなども取り組んでいる。
- ・問題点 働く人がいない 長続きしない 人が育たない 木を使ってもらいたいが価格が高くなって
しまう（本当はみんなの手に木製品を届けたい）

最近の取り組み

① 甲斐の木づかい 小1～中3まで同じ机を使う。その天板は中学卒業時に取り外して持ち帰ってもらう。 古屋製材所も関わっている。

② FSC 認証材を利用した東京オリンピックの施設が作られている。

授業後に古屋製材所の木製品に触れる時間を取った。

イス コースター チップ ハシ ハシ入れ 入れ物

